

米子市まちづくりビジョン まちづくり基本目標・基本方向の評価一覧

資料3

<p>◎総合評価の区分ごとの総数</p> <p><b>S … 0 (0%)</b></p> <p><b>A … 21 (42%)</b></p> <p><b>B … 29 (58%)</b>/内、新型コロナウイルス感染症の影響があったもの 25</p> <p><b>C … 0 (0%)</b>/内、新型コロナウイルス感染症の影響があったもの (全 50項目)</p>	<p>【総合評価の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施状況の評価は、各担当課の自己評価。</li> <li>・総合評価は、各まちづくりの基本方向の主な取組項目の総数に対する実施状況評価の数に応じて、以下のとおり評価したもの。</li> <li>・下記算出方法に留意事項を反映させて最終評価をおこなう。</li> </ul> <p>※ X = 実施状況評価のAの数 × 5ポイント(P) + Bの数 × 3P + Cの数 × 0P / 主な取組項目の総数 × 5P</p> <p>〈総合評価S〉 Xの値が10.0%であり、かつ数値目標を達成しているもの</p> <p>〈総合評価A〉 Xの値が8.0%以上</p> <p>〈総合評価B〉 Xの値が5.0%以上、8.0%未満</p> <p>〈総合評価C〉 Xの値が5.0%未満</p> <p>≪留意事項≫</p> <p>①基本的な考え方                  主な取組はあくまで目的を達成する手段であり、その先にある最大の目的「市民生活の幸福」の実現に向けた取組の進捗程度やそれを表す目標の達成状況を踏まえた評価となっているか。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の影響について                  主な取組が全く実施できなかったものについては評価対象から除外する。ただし、一部でも実施できた場合は、その取組について評価すること。また、SまたはA評価については、コロナの影響はなかったものとする。※コロナの影響はすべての取組に一定程度及んでおり、SまたはA評価に対しては、取組に大きく影響があったと考えにくく、そぐわないため。</p> <p>③数値目標を踏まえた評価について                  主な取組のうち、数値目標を定めている項目について、進捗状況が不十分な場合にはA評価としない。※進捗状況が不十分なもの…計画策定時より数値目標が下回っているもの。複数年の累計で目標設定している場合は目標値の達成率が4.0%未満であるもの。(コロナの影響により、実績が減ったものも含む)</p> <p>④達成困難度の差異について                  「まちづくりの基本方向」ごとの主な取組において達成困難度に差異がある場合、取組達成における困難度も考慮すること。</p>
--	--

まちづくりの基本目標	まちづくりの基本方向	総合評価	数値目標	注	令和3年度の実施状況
1 交通基盤の充実と人が集うまちづくり  S … 0 A … 3 B … 2 C … 0	1 広域的な交通基盤の整備	B	×	★	主な事業 ◎米子駅南北自由通路等整備事業など
	2 地域公共交通体系の確立	B	×	★	【交通基盤の充実と人が集うまちづくり】の取組については、おおむね予定通りに進捗している。令和5年8月頃に共用開始となる南北自由通路を契機とした米子駅周辺エリアの賑わい創出に向け米子駅周辺地区と角盤町周辺地区において、都市再生整備計画（まちなかウォークブル推進事業）の策定、「米子市都市計画マスタープラン」に沿った土地利用の推進などの取組を進めた。 また、米子境港間を結ぶ高規格道路の早期事業化に向けて、官民組織「米子・境港間の高規格道路地元懇談会」を新たに設立し、地元住民の意見を踏まえた国への要望活動を行い機運醸成を図ったが、目標としている「道路の具体化の検討」までには至らなかった。 各数値目標については、国内線の利用者数と「だんだんバス」の利用者数の指標であり、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、どちらも策定時よりマイナスの数値となった。このような状況ではあるが、米子市循環バス「だんだんバス」の利用促進に向けた新たな取組として、新たに2コース（歴史コース・まちなかコース）を実証実験として追加し、今後の利便性向上に向けた分析を進めている。 ※米子空港発着の国内線の年間利用者数：（策定時）589,505人（R2）137,641人→（R3）198,952人【R6目標値】645,000人 ※米子市循環バス「だんだんバス」年間利用者数：（策定時）129,993人（R2）93,948人→（R3）95,984人【R6目標値】137,924人
	3 調和のとれた土地利用の実現	A	-		
	4 米子駅周辺整備の推進	A	-		
	5 中心市街地のにぎわい創出	A	-		

まちづくりの基本目標		まちづくりの基本方向		総合評価	数値目標	注	令和3年度の実施状況		
2 市民が主役・共生のまちづくり	1	市民参加及び民間事業者等との連携協力	B	×		主な事業	◎民間事業者等との連携協力事業など		
	2	公民館を拠点とした地域づくりの推進	B	×		【市民が主役・共生のまちづくり】の取組については、予定通りに進捗しているものが4つとなっている一方、取組を行っているものの数値目標の進捗が不十分なものが4つあった。			
	3	地域福祉活動の推進	B	×	★	主な事業では、公民連携対話窓口「いっしょにやらいや」において、4件の提案に対し、2件の事業提案（フレイル対策拠点事業、学校校庭芝生化事業）を採択して、民間事業者との連携・協力を推進した。			
	4	障がい者（児）福祉の充実と共生社会の実現	B	×		また、鳥取大学医学部附属病院との取組では、包括連携協定を基に「乳幼児健診・ステップ検診・フレイル対策推進事業・ネグレクトプロジェクト事業等」における共同事業の実施や、同病院が行う「在宅医療推進のための看護師育成プログラム」に対し、本市職員を講師として派遣するなど連携強化を図った。			
	5	互いの人権を尊重し合うまちづくりの推進	A	-		一方、自治会を中心とする地域コミュニティの充実強化のための条件整備について、市からの依頼業務の見直し等による地域自治組織の担い手の負担軽減の取組の進捗度合いが不十分であった。こうしたことから、今後は、定型的な業務等についてBPR（業務の抜本的な見直し）を行い、改善を図ることとしている。			
	6	男女共同参画社会の形成	B	○	★	各数値目標については、市民の利便性向上を目的として導入している「AIチャットボット」の年間問い合わせ件数が、目標値を大幅に上回っているが、更なる利用促進を図るため、今後もQ & Aの充実や回答の正確性の向上を行っていく予定である。			
	7	多文化共生社会の実現	B	-	★	また、地域福祉活動の推進については、ふれあいの里総合相談センター開設に向けた「総合相談支援センター整備推進会議」を立ち上げた。令和4年度以降は、本センターの取組について評価する場として継続させるとともに、包括的相談支援体制の整備に向けた新たな推進会議を立ち上げていくこととしている。			
	8	鳥取大学医学部及び米子工業高等専門学校等との連携	A	-					
	S … 0 A … 4 B … 6 C … 0	9	国県・他自治体の連携協力	A	-		※公民連携対話窓口の活用による連携事業の実施本数<累計>：(R2) 2件→(R3) 3件【R6目標値】10件		
		10	Society5.0の実現に向けた技術の活用	A	○		※AIチャットボットへの年間問い合わせ件数：(R2) 13,392件→(R3) 26,701件【R6目標値】1,000件		
3 教育・子育てのまちづくり	1	在宅育児支援の充実	A	○		主な事業	◎教育に係る環境整備事業など		
	2	待機児童の解消と子育て支援の充実	A	○		【教育・子育てのまちづくり】の取組については、昨年度同様、ほぼ予定通り進捗しており、“在宅育児支援の充実”においては、数値目標についても目標値を達成している。			
	3	子どもの特性や発達に合わせた適切で切れ目ない支援	A	-		主な事業では、こども総合相談窓口をはじめ、児童相談所等の関係機関との連携による、子育て世代包括支援体制を構築し、発達相談、巡回相談、就学相談会や、子育て及び保育についての支援を行い、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに努めた。			
	4	学校教育の充実	A	-		各数値目標についても、令和6年度の目標値に近づくように推移しているものがほとんどであるが、児童文化センターの年間利用者数については、新型コロナウイルス感染症の影響により、策定時よりマイナスとなっていた。しかしながら、令和2年度と比べ16%程度増加しており、引き続き、感染防止等の対策を講じながら事業等を実施することにより、子どもたちの学習や体験活動の機会を提供することとしている。			
	5	学校施設の整備・充実	B	-	★				
	S … 0 A … 4 B … 3 C … 0	6	児童・青少年の健全育成	B	×	★	※児童文化センターの年間利用者数：(策定時) 174,764人 (R2) 102,583人→(R3) 119,395【R6目標値】190,000人		
		7	ふるさと教育の推進	B	-	★			

まちづくりの基本目標		まちづくりの基本方向		総合評価	数値目標	注	令和3年度の実施状況		
4 地産外商・所得向上のまちづくり	1	地元企業の振興と地域産業の活性化	B	×	★	主な事業	◎成長産業の育成と新産業の創出事業など		
	2	成長産業の育成と新産業の創出	A	○		【地産外商・所得向上のまちづくり】の取組については、“インバウンド対策の推進”及び“移住定住の促進”の取組において、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったものがあつた。			
	3	企業誘致の推進	A	○		主な事業では、成長産業の育成と新産業の創出として、ローカルエナジー社と連携した「よなご未利用エネルギー活用事業」を展開し、公民館への太陽光パネル（13館）及び蓄電池（4館）の設置並びに内浜処理場に消化ガス発電機を設置し、本市のレジリエンス向上やVPPシステム（仮想発電所）の構築に取り組んだ。			
	4	雇用の安定と確保	B	×	★	また、中小企業の競争力強化及び新事業展開への支援策として、「よなご住んで楽しいまちづくりファンド」の設立を行い、商店街や皆生温泉エリア等における民間投資を促す取組を新たに開始した。			
	5	皆生温泉のまちづくり	B	×	★	一方、インバウンド対策の推進では、コロナ禍が長期化し国外からの誘客が見込めない中、国内旅行者の減少に苦しみ観光事業者支援に注力したため、国外向け情報発信は実施できなかった。今後（令和4年度以降）アフターコロナに向けた観光資源の磨き上げや環境整備等を積極的に行っていく。			
	6	地域資源を活用した観光施策の推進	A	-		各数値目標については、「婚活イベント参加者の成婚数」の実績が依然ない状態である。婚活イベント（出会いの場の創出）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年連続で実施できていない状況であり、今後求められる持続可能な新たな取組を検討する必要がある。			
	7	広域連携による観光振興	B	×	★	メールマガジン登録者数については、昨年度同様、目標値を上回る結果となっており、今後も効果的な発信手法を検討しながら、シティプロモーションの推進を行うことで、関係人口の拡大や移住定住の促進を図っていくこととしている。			
	8	インバウンド対策の推進	B	×	★	※婚活イベント参加者の成婚数「累計」：（R2）0組→（R3）0組【R6目標値】10組			
	9	次世代につなぐ農業の推進	B	×	★	※メールマガジン登録者数：（R2）14,037→（R3）15,317人【R6目標値】13,000人			
	S…0 A…4 B…9 C…0	10	農業基盤整備の推進	A	-				
		11	地域特性を活かした漁業の振興	B	×				
		12	シティプロモーションの推進と関係人口の拡大	B	×				
		13	移住定住の促進	B	○	★			
5 歴史と文化に根差したまちづくり	1	米子城跡の保存・活用・整備と魅力発信	A	-		主な事業	◎米子城跡保存整備事業など		
	2	芸術文化活動の推進	B	×	★	【歴史と文化に根差したまちづくり】の取組については、おおむね予定通りに進捗している。 主な事業では、米子城跡のライトアップ等を行う「米子城跡・魅せる！プロジェクト事業」の実施や、NHK日本最強の城スペシャルでの「絶景の城米子城」の称号を活用した、広報活動及びダイヤモンド大山観望会等の取組を実施した。 各数値目標については、各文化施設の年間利用者数と淀江地域の観光施設の入込客数が、新型コロナウイルス感染症の影響により、策定時よりマイナスの数値となったものの、昨年度実績よりは上昇した。今後も、感染防止等の対策を講じながら、利用者及び入込客を増やすような取組を進めていくこととしている。			
	S…0 A…1 B…2 C…0	3	淀江地域における歴史・地域資源の活用	B	×	★	※米子市公会堂・米子市文化ホール・米子市淀江文化センター・米子市美術館の年間利用者数の合計（策定時）403,172人（R2）157,802人→（R3）190,989人【R6目標値】452,000人 ※伯耆古代の丘エリアの観光施設、歴史文化施設の年間入込客数：（策定時）18万人（R2）14.3万人→（R3）16.6万人【R6目標値】20万人		

まちづくりの基本目標		まちづくりの基本方向		総合評価	数値目標	注	令和3年度の実施状況	
6 スポーツ健康まちづくり	1	すべての人がスポーツに親しむことのできる環境づくり	B	×	★	主な事業	◎東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業など	
	2	スポーツを通じた地域の活性化	B	×	★	【スポーツ健康まちづくり】の取組については、全日本トライアスロン皆生大会や皆生・大山SEA TO SUMMIT等のスポーツツーリズムに関するイベントがほぼ中止になったことにより、取組が実施できない結果となったが、市主催大会や少年スポーツ教室については、感染症対策の徹底や従来の開催方法を見直すなどの対応により、可能な限り開催した。		
	3	生活習慣病予防の推進	B	×	★	主な取組としては、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の機運醸成を目的とした聖火リレーの実施や、過去最多となる5名の地元出身オリンピック・パラリンピック選手のPR及び後援会と連携した応援活動等に注力した。様々な意見がある中ではあったが、地元出身選手の輝かしい活躍により、全米が元氣と感動の渦に包まれ、スポーツを通じた地域の活性化を図ることができた。		
	4	介護予防、フレイル対策の推進	B	×	★	また、すべての人がスポーツに親しむことのできる環境づくりの取組として、淀江球場・東山陸上競技場の改修工事や令和4年度の共用開始に向け、スポーツ施設の電子予約システム導入に向けたシステム構築等を行った。 数値目標では、コロナ禍の影響により、スポーツ施設等の利用者数や市民体育祭の参加者数が、令和2年度と同様に計画策定時よりマイナスとなった。介護保険の認定を受けている人の割合のうち後期高齢者（75歳以上）については、フレイル対策の強化等により、令和6年度の目標数値を達成している。今後もコロナ禍における持続可能な手法を取り入れ、スポーツを通じた地域の活性化及び生活習慣病予防等に努めていくこととしている。 ※スポーツ施設及び学校体育施設の年間延べ利用者数（策定時）1,047,861人（R2）858,940人→（R3）858,302人【R6目標値】1,200,000人 ※市民体育祭の参加者数：（策定時）1,477人（R2）162人→（R3）735人【R6目標値】1,700人 ※介護保険の認定を受けている人の割合（後期高齢者）：（策定時）35.2%（R2）34.8%→（R3）34.3%【R6目標値】34.7%		
7 災害に強いまちづくり	1	公共インフラ施設の整備	A	○		主な事業	◎環境保全活動の推進事業など	
	2	総合的な住宅政策の推進	B	×	★	【災害に強いまちづくり】の取組については、ほぼ予定通りの進捗となった。		
	3	良質な水源開発と災害に強い施設・管路の整備	A	○		主な事業としては、公害対策と身近な環境問題の適切な課題解決の取組として、ヌカカ発生抑制対策に係るモデル事業及び発生抑制対策効果検証事業（委託先：米子高専）を実施するとともに、令和4年度からの区域拡大を見据えた持続可能な対策手法の検討を行った。		
	4	総合的な生活排水対策の推進	A	○		空き家の増加対策及び利活用推進の取組においては、空き家の発生予防及び適切な管理の周知啓発のための冊子を作成し、空き家相談会などで配布するとともに、モデル地区における「空き家実態調査及び所有者意向調査」を行った。なお、本調査は令和4年度も継続して行う予定である。		
	5	危機管理体制の充実強化	B	×	★	各数値目標については、自主防災組織の育成補助金交付実績割合、防災講座等の年間職員派遣件数、中海・宍道湖一斉清掃の参加人数が計画策定時よりマイナスの数値となった。その全ての数値が、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものであり、引き続き感染防止等の対策を講じながら、可能な取組を進めていくこととしている。		
	6	地域防災力の充実強化	A	-		※自主防災組織の育成補助金交付実績割合：（策定時）44%（R2）18%→（R3）15%【R6目標値】60% ※防災講座等の年間職員派遣件数：（策定時）81件（R2）37件→（R3）58件【R6目標値】100件 ※住民説明会等の年間開催回数：（策定時）25回（R2）16回→（R3）27回【R6目標値】25回 ※中海・宍道湖一斉清掃（米子会場）の参加人数：（策定時）1,163人（R2）409人→（R3）400人【R6目標値】1,300人		
	7	原子力災害対策の推進	A	○				
	8	環境保全活動の推進	B	×	★			
S ... 0	A ... 0	B ... 4	C ... 0					
S ... 0	A ... 5	B ... 3	C ... 0					